



人付き合いが上手な人、下手な人

電気科長 三浦 智

- 人付き合いが下手な人は、自分に優しく、他人に厳しい。
- 人付き合いが上手な人は、自分に厳しく、他人に優しい。

自分に厳しくするか、優しくするか。それとも、他人に厳しくするか、優しくするか。

これらの違いは、人付き合いの善しあしに影響してきます。人付き合いが下手な人は、まず自分に優しくなります。約束を守ろうとする意識が乏しく、約束を破ることが多い。難しそうなことは、条件や許容範囲の緩和をお願いして簡単にしてもらったり、できないことがあれば、すぐに諦めて誰かにお願いしたりする。それでありながら、ミスや失敗をしたときには言い訳や責任転嫁の癖があり、許してもらおうとする。自分に優しくなりますが、一方で他人には厳しくしてしまいます。もし他人が失態を犯せば、強い言葉で怒鳴りつけたり、厳しい罰則を与えたりします。自分にも他人にも厳しいなら、強い心と信念が感じられるので、まだ周りから好意的に受け止められますが、自分に優しい割に他人には厳しい状態は、ただの甘えです。自分が一番大切であり、保身の気持ちが強いことが分かります。自分と他人に対する態度が大きいため、周りの人から悪印象を持たれるのです。

では、人付き合いが上手な人は？人付き合いが上手な人は、まず自分に厳しくなります。小さな約束であっても、きちんと守ろうとする。1つのミスや失敗もないよう心がける。常に丁寧な仕事を心がけ、できるだけ完璧を目指そうとする。もしミスや失敗を犯せば、誠実に謝り、深く反省することができる。自分には徹底して厳しい一方、他人には優しくなります。約束を破られても、注意するだけで、怒ることはない。他人のミスや失敗には寛容で、慰めたり勇気づけたりもできます。

さて、社会に出て、苦勞することといえば、やはり人間関係です。人間関係は、社会に出た誰もが必ず経験する課題です。仕事の楽しさは、人間関係で決まるといってもいいと思います。そのくらい人間関係は、仕事に激しく影響を及ぼします。学生時代では好きな人同士と一緒にいれば、それで済みますし、嫌いな人や苦手な人とは、付き合わなければいいだけです。

しかし、社会ではそうはいきません。嫌いな人、苦手な人と一緒に仕事をするのはもちろんのこと。顔も見たくない、声も聞きたくない、近づきたくない人と、毎日一緒に仕事をしなければならない環境は社会ならではです。社会に出た人は、みな人間関係に苦勞をして、そうして少しずつですが「本当の人付き合い」ができるようになります。できるようになるというのは、自分が変わっていくからです。

皆さんも一度、きちんと自分と向き合ってみてはどうでしょうか？

面接試験の時に何も話せなくて困ってしまうのは自分かもしれませんよ。

土木課長 鯉谷 博文

今回は職業観というよりも教師観という観点で書かせていただきます。

私は昭和43年に、長男として生まれました。（長男といっても姉が2人いる末っ子です）

両親は共働き、姉2人とは遊ぶ内容も違うので、あまり話をすることもなく、自然に1人で遊ぶことを覚え、いつのまにか1人でいることが普通になっていました。その影響があったからかはわかりませんが、幼稚園の頃も、あまり誰とも話さず友達もほとんどいない状況、ついには不登園になりました。

小学校にすすんでも、相変わらず友達が少なく、不登校傾向。そんな私が変わったのは小学5年生。当時の担任の先生のおかげでした。明るく楽しく時には厳しく、毎日何事にも全力で頑張り、いつも児童のことを一番に考えてくれる最高の先生でした。その先生と出会って、私自身が明るく楽しく何事にも全力で頑張れるようになり、自然に友達も増え、楽しく充実した毎日を過ごせるようになりました。

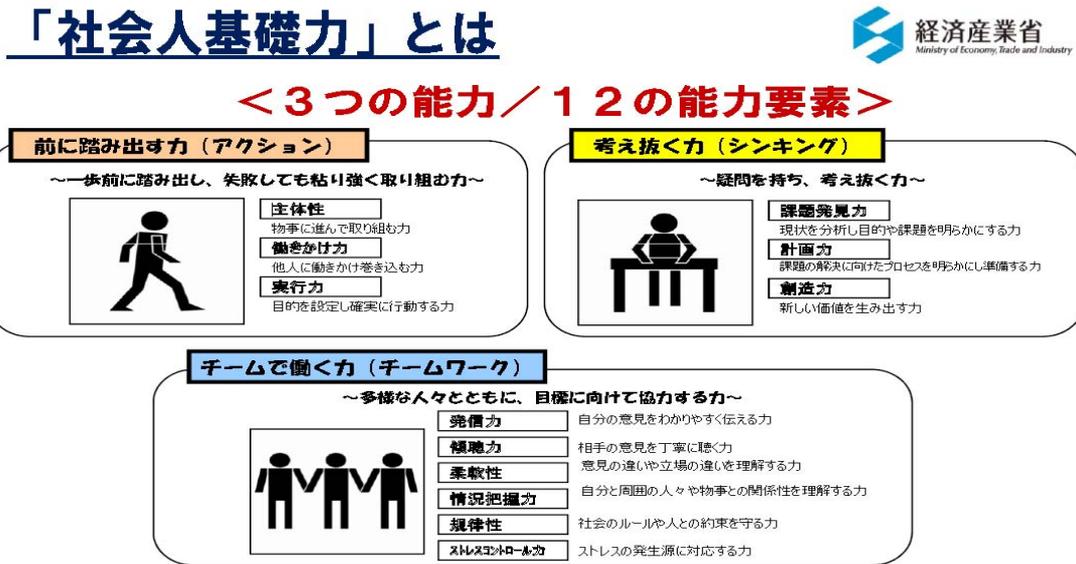
高校生になり、以前から興味があったバレー部に入り、バレーの楽しさだけでなく、挨拶・言葉遣い・ものの見方や考え方・協調性・積極性などたくさんのことを顧問の先生から教わりました。その中でも特に印象に残っている言葉があります。思い通りのプレーが出来ず悩んでいた頃、「自分にしかない自分らしさを忘れるな」と助言していただきました。この一言で、忘れかけていた自分らしさを思い出し、明るく元気にプレーしチームを盛り上げ、楽しみながらも必死にバレーに打ち込みました。

私の人生に大きな影響を与えてくれた2人の先生に出会って、「自分も先生になりたい！」「先生になって、生徒が成長するための一助になりたい」「生徒の人生に大きな影響を与えられる先生になりたい」「先生と出会ってよかった！と思ってもらえるような人になりたい」「とにかく生徒の力になりたい」と強く思い、教師の道を選びました。この時の想いが、教師として27年経った今でも変わらずあります。

「自分らしく、生徒のために全力で」…これが私の教師観です！

進路指導部では平成27年度から、来校した企業の方を対象に社会人基礎力アンケートを実施しています。社会人基礎力について、経済産業省では次のように説明しています。

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱しています。企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要と なってきています。



過去2年間のアンケート結果は以下の通りです。

職種	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	コントロール
開発技術者	8	1	4	4	2	5	4	4	5	3	5	3
製造技術者	6	3	4	5	6	0	3	5	0	4	4	1
建築・土木・測量技術者	32	7	18	24	17	11	29	25	18	13	27	11
情報処理・通信技術者・その他技術者	5	2	4	3	1	2	4	5	5	1	6	1
一般・生産・営業・販売事務	3	1	4	3	1	3	4	3	3	4	2	1
営業・販売・サービス	8	2	9	7	4	4	10	10	9	5	9	6
保安	2	0	2	2	0	0	0	2	2	1	3	1
生産設備制御・監視	7	1	5	7	2	0	6	2	2	3	6	2
製造・加工・溶接	31	4	11	18	8	7	17	25	10	14	16	10
機械組立・整備・修理	36	6	22	29	10	12	21	28	21	16	33	12
製品・機械検査他	5	4	3	4	3	3	3	3	4	2	2	5
輸送・機械運転	11	2	7	10	2	5	6	7	5	6	11	2
建設・採掘	27	3	19	21	16	6	14	15	16	13	23	3
運搬・清掃・包装	5	1	5	3	6	2	4	2	1	4	8	2

職種によらず「主体性」を求める企業が大変多かったです。その他には、「規律性」や「課題発見力」を求める企業が多かったようです。

自身の適性と照らし合わせ、少しでも企業の求める適性を身につけたいものです。